

2023年
2月発行

第27号 宝同協だより

め ぼ 芽 生 え



ハーとん

編集発行：宝塚市人権・同和教育協議会

〒665-8665 宝塚市東洋町1番1号(宝塚市教育委員会事務局 学校教育課内) TEL:0797-77-2040/FAX:0797-71-1891

2022年度 ハーとん じんけん作品賞 入賞者のお知らせ

【ポスターの部】

○最優秀賞 (3点)



横島 綾乃さん(山手台小 3年)



細川 里菜さん(長尾南小 6年)



渋谷 瑞花さん(宝塚中 2年)

○優 秀 賞 (6点)

辰田 真唯さん(長尾台小 3年)・原田 菜帆さん(宝塚小 3年)・水口 新太さん(丸橋小 5年)
原 美緒さん(すみれが丘小 6年)・西村 実莉さん(南ひばりが丘中 1年)・石丸 はぐみさん(高司中 2年)

【標語の部】

○最優秀賞 (4点)

岩田 蒼葉さん(末広小 3年) 『その言葉 自分がいわれて どう思う』
亀野 新太さん(中山台小 5年) 『だれにでも かがやく場所は きっとある』
小籠 咲衣さん(宝塚中 1年) 『悪口は 自分自身への ブーメラン』
今北 真奈美さん(市民) 『流されない 私の心 強くなれ!』

○優 秀 賞 (8点)

西村 聡之介さん(雲雀丘学園小 2年)・荒巻 龍之介さん(長尾台小 3年)
小山 彩季さん(小浜小 5年)・太田 有秋さん(良元小 6年)・内橋 瑞輝さん(高司中 1年)
杉本 姫菜さん(宝塚中 2年)・荒谷 昭恵さん(市民)・福住 美壽さん(市民)

【作文の部】

○最優秀賞 (4点)

中川 聡香さん(市内小 2年) 『わたしとメガネ』
匿名 (市内小 4年) 『わたしの体けん』
岩崎 沙菜さん(山手台中 3年) 『未来への大きな一歩』
山崎 美穂さん(雲雀丘学園高校 1年) 『日本の素晴らしい文化』

○優 秀 賞 (7点)

甲斐 桜子さん(宝塚第一小 3年)・長谷川 凌大さん(安倉北小 3年)・宮本 陽希さん(中山台小 4年)
チャステイン マディス柊さん(宝塚第一小 5年)・勝山 愛加さん(南ひばりが丘中 3年)
大島 大和さん(山手台中 1年)・山崎 美緒さん(雲雀丘学園高校 1年)

【写真の部】

○最優秀賞 (1点)



萩井 ことのさん(雲雀丘学園小 6年) 『100の感謝といのり』

○優 秀 賞 (1点)

加藤 昊聖さん(雲雀丘学園小 3年)

※ 最優秀賞・優秀賞受賞者のみを掲載しています。
※ 佳作を含めた全受賞者名やポスター、写真、
標語の受賞作品は、宝同協のホームページにて
ご覧いただけます。





2022年度 ハーとん じんけん作品賞[作文の部]入賞作品の紹介

【最優秀作文】

未来への大きな一歩

宝塚市立山手台中学校三年

岩崎 いわさき
沙菜 さな



「一視同心」全てを平等に慈しみ差別しないこと。それは、私の人生をかけての決意です。もし友だちでも、いじめなどの問題を起していたら、自分が犠牲になろうとも止めるでしょう。私がそう決心したのは、ある一人の仲の良かったクラスメイトが関わっています。小学生の時、彼はある問題に巻き込まれました。

その子はある時からクラスの数人の男子からのいじめの対象となりました。クラスの子はどうしたら良いのか分からず、ただ立ち尽くすだけ。先生も手に負えないほどひどいものでした。その子は蹴られたり、暴言を吐かれたり。その子の親を通してその子の心が「壊れかけている」と聞いていながらも、何もする事ができませんでした。だんだんその光景がクラスの中で普通になっていって、私もクラスの子も見えない手でその子の心を壊していったのかもしれない。だんだんその子は来なくなり、先生にその子の転校の事を話されました。心に穴が空いたようでした。そんな中クラスは一人欠けても、何事も無かったかのように元の形に戻ろうとしていて、本当にこれで良いの？と思いました。そしてその時、自分がしてきたことの無念さを感じました。「自分がいじめられる側にならなければ良い」「いつかは丸く収まるだろう…」人の気持ちを深く考える事ができなかった自分、行動する勇氣を持てなかった自分をあんなに後悔したのは、あの時が人生で初めてでした。何もしなかった自分も、あの子をクラスから追い出す事になった加害者だと、強く苦しめられました。

それから数年後、私はクラスの女子から避けられる経験をしました。ある子とのすれ違いが元で、クラスで話す人がおらず、一人で静かに過ごす、という事も沢山ありました。結局、その子とは、先生や周りの

の子のおかげでわだかまりが解けて、少しずつ私を理解してくれるようになりました。ですが、その経験は、まるで氷水のように冷たく心に突き刺さったのを今でも忘れられません。私の発言が、誰かに受け止められる事なく、ただ時間だけが過ぎていく。それは、私にとっても辛いもので、家で泣く事もしばしばありました。

それから、ニュースで「自殺」の事を聞かされた時に、心がズキズキと痛みました。あの時転校してしまっただけが命を絶たないでいてくれて本当に良かった、と思いました。私も友だちから避けられた経験をした事によって、苦しめられている人の気持ちがより分かりました。あの子は私よりも過酷な状況の中で我慢して、人権の「自由」を沢山奪われて、自分の思う事を「自由」に発せなかった。そしてあの子の「自由」を奪ったものの中には、クラスメイトでありながらもその子の為に行動しなかった私も含まれている、とても後悔しています。

私は、人を守るという事の大切さを改めて感じました。人は人によって、助け合ったり、支え合ったりできる存在です。みんなを平等に大切にするというのは、そう簡単な訳ではありません。ですが、努力していくうちに、お互いを分かち合えたりする事ができます。その事に気付けた経験を通じ「人権」をこれからも大切にしていきたいと思っています。私はそんなに人前で話すことが得意ではないし、相手と立ち向かう勇氣もまだしっかりと持ち合わせていません。ですが、いじめを消し去る事を常に心に留めていければ、行動できるだろうと思います。大切な事は、人の言葉をしっかりと受け止め、それに対して本当の心で答えていく事だと思います。もしみなさんが問題を抱える場面に差し掛かった時、ぜひとも素直で本当の心でその一歩を踏み出してみてください。私の母は「人は人の為に何かをする時に驚くような大きな力を発揮する」と言います。自分にとっては小さな一歩でも、相手にとってはとてつもなく大きな一歩となるかもしれません。



第12回 宝同協研究大会「人権交流学びのつどい」

11月19日(土)に開催された研究大会には、152名の参加がありました。沖縄民謡の唄と三線の演奏と、『10年後のわたし』作文の表彰で始まり、その後6つの分科会に分かれ、報告者からの貴重な実践や体験のお話を聞き、参加者による話し合いと交流がおこなわれました。どの分科会も、活発な意見交流の場となり、多くの成果を得ることができました。



宝塚高松三線会による演奏

以下に、分科会の概要と感想を紹介します。

【アンケート回答者：103名】

「人権交流学びのつどい」分科会の紹介

① 子どもたちと夢を語ろう



6人の子どもの「10年後のわたし」作文の発表を受けて、参加者全員で子どもたちの夢や希望を実現するために、大人である自分たちがこれからどのように子どもたちとかわりを持っていくか、またどのような社会をつかっていけばよいかを考え、意見交流をしました。参加者全員の「夢と希望の未来図」の実現に向けての大きな一歩となりました。

子どもたちの気持ちを聞けることはあまりなかったのでダイレクトに聞くと涙が出ました。こんなことを考えているのかと思うとビックリしました。ダイヤの原石をピカピカにできる親になりたいと思います。

② 部落差別について考える



太鼓演奏の動画を鑑賞した後、様々な差別に悩んでいる青年たちの集まる場所として誕生した和太鼓集団「熱光」との出会いから今にいたるまでを中心に報告がなされました。その後、「部落差別問題の具体的な事案」について質問が出されました。報告者からはその都度、自身の体験を交えて丁寧な説明がありました。今も厳然とある部落差別問題について理解を深める場となりました。

部落差別がなくなる現状、地域に住まわれている方のお話を聞かせていただいた。地域の方々の並々ならぬ努力、闘いがあって差別が減ってきた事実、差別がまだあることを伝えていきたい。

③ 障がいのある人たちとの共生



10歳で心臓病を発症、17歳で身体障害者2級に認定されたが、「難病＝障がい」ということが受け入れがたいときもあった。長期入院をする中で多くの子どもたちの生死に接し、病と闘う子どもたちに寄り添いたいと思ったこと等が報告されました。意見交流では「ヘルプマーク」の認知度の低さ、「助けて」と言えない経験とともに、障がい者理解・支援の現状等が活発に意見交流されました。

死と隣り合わせのように感じる病を持つ方の実体験は多くの衝撃と同時に発見があった。特にご自身が入院される中で子どもたちが何人も亡くなったという話には親としても保育士としても胸がしめつけられた。

④ 在日外国人の人権を考える



日系4世として5年生の時に宝塚へ。当初はサポーターも通訳もなく、中学校からはじめにも辛い日々を送られました。そんな時、外国籍や日本の子どもの居場所『さすなの家』に通うことになりました。参加者からは「自分は何かできなかったのか」等の声もありました。さらに報告者から「心のケアが大事。気にかけてくれることで救われる」と願いも語られました。

たくさんの気づきがありました。それぞれの個性、環境、色々ありますが、今、ここで自分がその人の立場に立ち、ゆっくりわかるように話すことはできると思いました。

⑤ さまざまな性について考える



性的違和を感じている子どもの母親からの報告。女兒として生まれたが違和を感じ始めたのは3歳の頃。それ以来、子は遊びや服装はすべてかっこいいものを好んでいるが、親として何を選択しても一緒につき合うことを心掛け、常に「あなたを大切にしている」と伝えていること等が報告されました。その後、社会や学校現場の現状、これからのサポートについて討議がなされました。

LGBTQへの理解を深めるために参加させていただいて、親や学校、社会がのりまの自分を表現でき、皆が受容していける環境をつくっていききたいと思いました。

⑥ 学校園所の人権教育



『部落差別』についての知見、『人権学習』の時間の確保と『人権の視点』を教員間で共有する方法等について切実な課題の報告。その後のグループ討議では、①はじめの実態を背景に人権学習を生活実態に効果的に結びつけるには②学校間の教員の繋がりや人権教育人材バンク制度の構築③統一した人権学習カリキュラムの作成④『部落問題学習』研修会をもつ等の意見が多く出されました。

教師自身が学ぼうとする姿勢が大切だと思いました。地域の方との話をする機会に積極的に参加しなければならないと感じました。

連載 夢と希望はどこに？ ⑳卒業する中 3 生へ

思い出してごらん 何かが見える.....

- ・ 3年前、大声も大喜びもないコロナ入学式
- ・ カッコイイ上級生に憧れたあの日
- ・ 怖い先輩から目をそむけた月日
- ・ 満点を取った英語の単語テスト 1 回
- ・ 友と喧嘩して涙が落ちた夕暮れの帰り道
- ・ 憧れの部活がなぜか苦しみの連続
- ・ 合唱コンで口をパクパクさせたステージ
- ・ 恋人ができたときの胸のトキメキ
- ・ 先生をからかったあの日の心の痛み
- ・ プリクラで顔を寄せあった友だち 4 人組

これが青春の 1 ページ.....

- ・ ユニフォームを着て公式戦に出た喜び
- ・ 誰もいなくなったコートに落とした一雫
- ・ ラブレターを書いては破った眠れぬ夜
- ・ ツーショットに冷やかされた通学路
- ・ 俺が悪くないのに怒鳴られた職員室
- ・ 父や母がいやになったあの 1 週間
- ・ なぜ勉強しなあかんねんと悩んだ 1 か月
- ・ 手作りチョコ渡せず家で食べたほろ苦さ
- ・ コロナなんかと言っていた友がコロナに
- ・ しゃべるな、離れろ、憂鬱なマスク生活

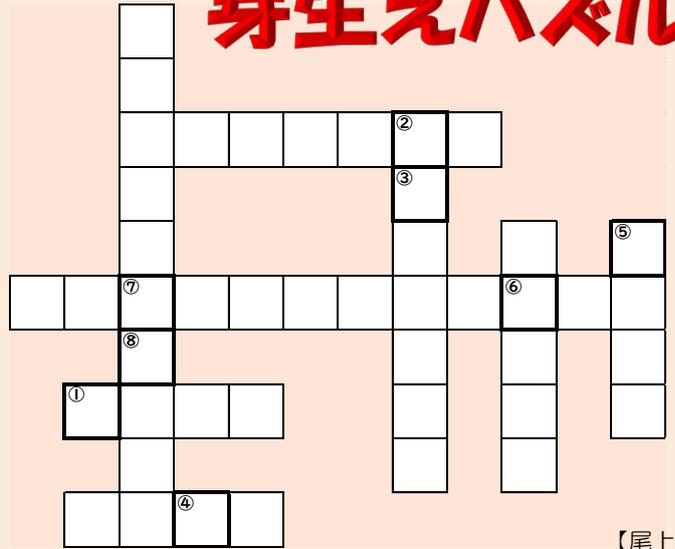
これが愛と孤独の 1 ページ.....

- ・ 髪と眉の手入れに 1 時間かけた登校前
- ・ 給食を残してダイエットしたときの空腹
- ・ 勉強しているふりしてスマホ没頭の夜
- ・ スラックスはいて登校したあの子は凄い
- ・ ラインの功罪ハッキリ知った友のひと言
- ・ 文化祭で彼女の手に触れた温もり
- ・ 私服で心がはじけた沖縄平和通り
- ・ 頑張れ頑張れ！今だ！言われ続けた日々
- ・ 受験で不安な夜を過ごした 1 月
- ・ 必死で夜通し机に向かった 2 月
- ・ 自分で自分を褒めたい最後の追い込み
- ・ アスファルトの隙間に咲く花のように
- ・ 挫折と失望が自分を大きくしてくれた
- ・ 家族や先生の励ましが私を勇気づけた
- ・ そして、3 月 9 日、別れにこらえる涙
- ・ 夢と希望が私にもあるのでしょうか？

これが笑顔と涙の数だけ強くなった
中学 3 年間.....

【和久】

芽生えパズル



【尾上】

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
---	---	---	---	---	---	---	---

○たて・よこのマス目に下の文字をうまくあてはめます。
○太いマス目に入った文字を並べ替えてある言葉にします。
(答えは下にあります。)

- 4 字 ちゃいむ・あいさつ・みかづき
- 5 字 りらくす
- 7 字 こくさいりかい・かるたたいかい
- 10 字 ぜんこくすいへいしゃ
- 12 字 にじいろのまちたからづか

街角風景



桃の花が咲いた！【和久】



✿ 編集後記 ✿

子育て中、我が子に「お友だちと仲良くね」と言いつつ、自分はどうかただだろう…。悲しい思いを味わったこともあったけれど、「人権」を学び、素晴らしい友に恵まれ、日々固くなっていく頭を少しでも柔らかく保てるよう学び続けたいと思います。【坂野】

宝同協だより「芽生え」編集委員

- 津国 千恵子・菅 理香・平松 友紀・坂野 はるみ
- 木下 真里・尾上 宏一・稲垣 久和・池澤 径子
- 和久 有彦・美除 浩・加藤 謙太・石櫃 孝啓
- 荻野 雅憲・登日綱 勢津子